

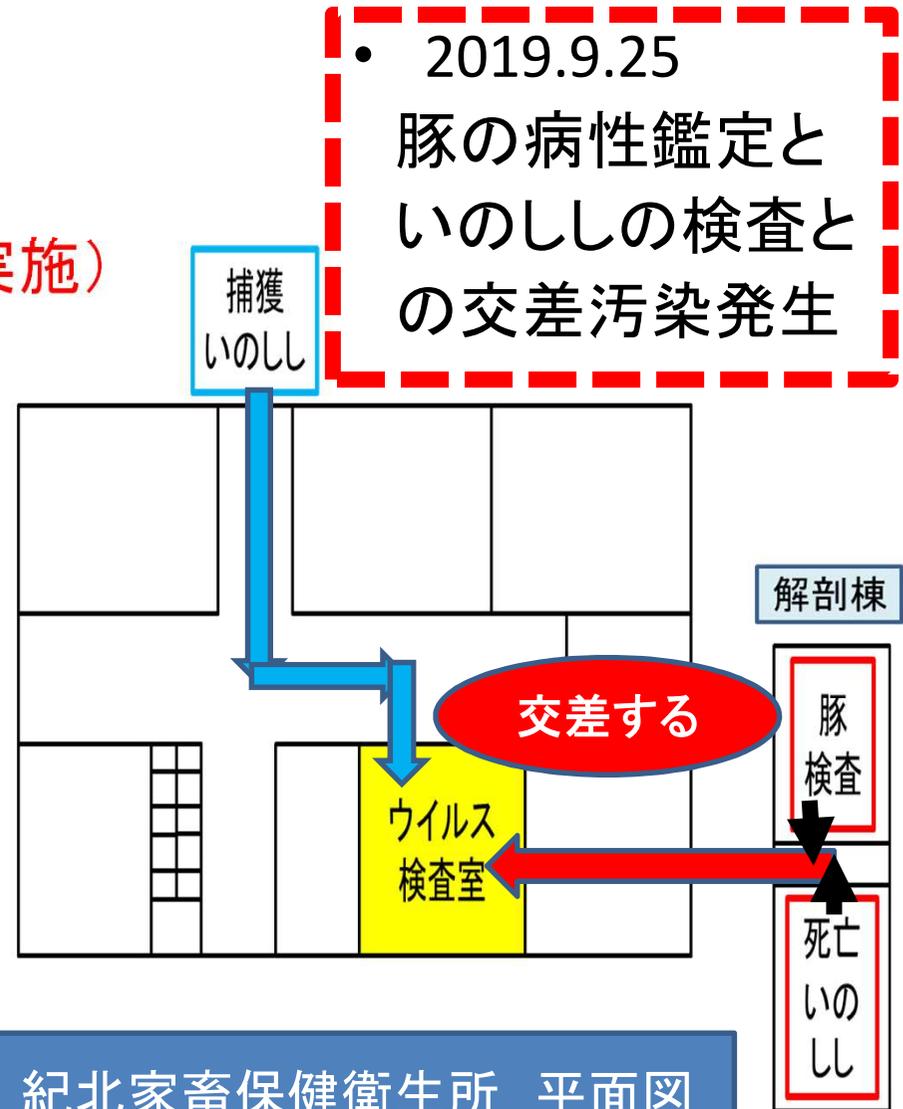
図1

野生いのしし豚熱検査の経緯1(県内)

- 2018.10 死亡いのししのサーベイランス検査を開始
検査日未設定(搬入後、随時実施)
- 2019. 9 捕獲いのししのサーベイランス検査を追加
検査日週1回(検体が血液のみで多くなったため)

- 2019.9.25 豚の病性鑑定といのししの検査との交差汚染発生

庁舎構造的に動線が交差するため十分に注意徹底
豚の病性鑑定と同じ動線
ウイルス検査室で実施



紀北家畜保健衛生所 平面図

図2

野生いのしし豚熱検査の経緯2(県内)

- 2019.10~2020.3の動線

- 交差汚染防止のため工夫して検査
- 消毒徹底、豚といのししは別日に
- 野生動物専用検査室新設も併行

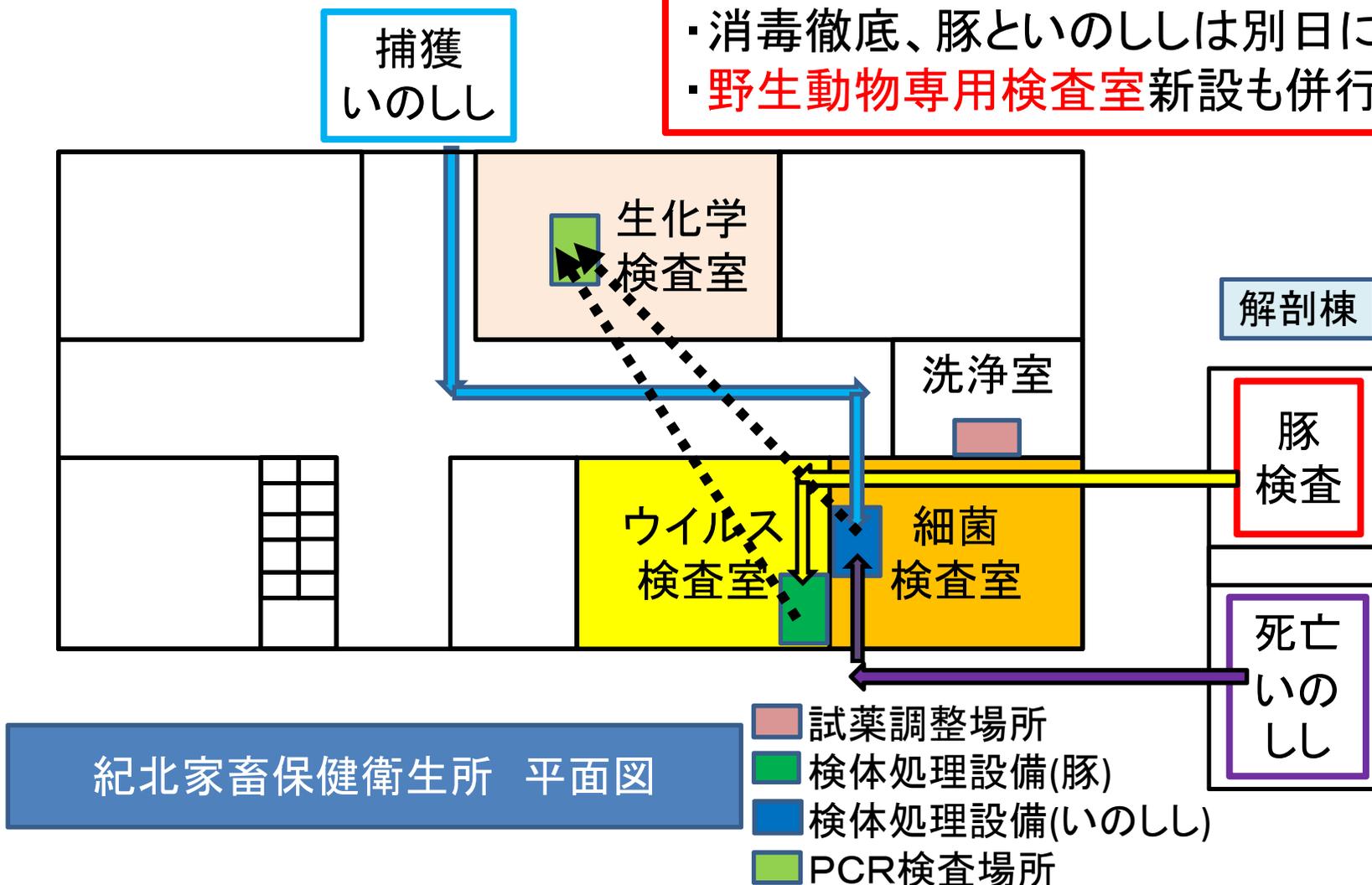


図3

野生いのしし豚熱検査の経緯3(県内)

- 2020.3 交差汚染防止のため専用検査室設置

- 検査日は週1回
- いのしし専用の検査員

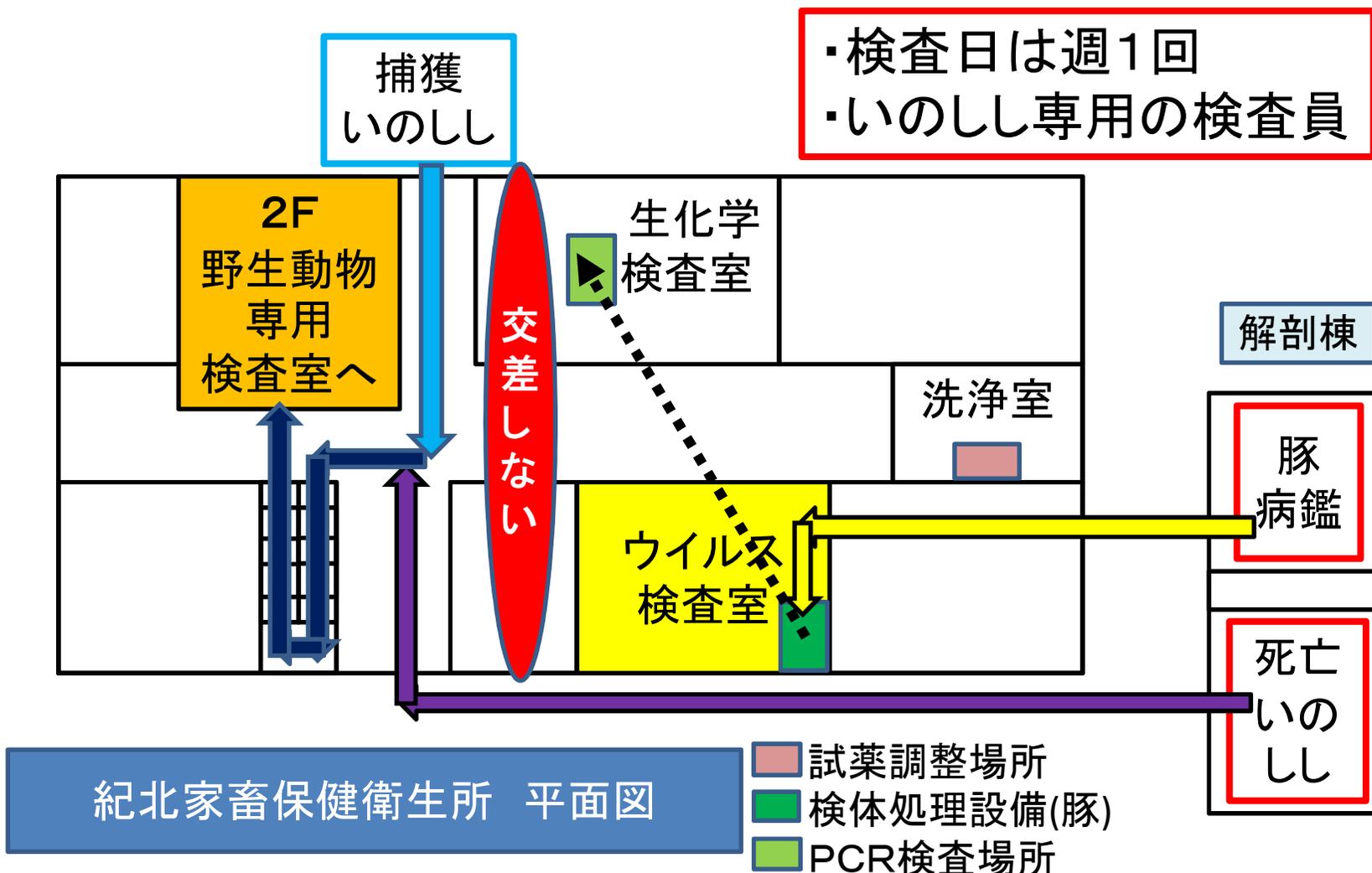


図4

野生いのししの豚熱検査の流れ

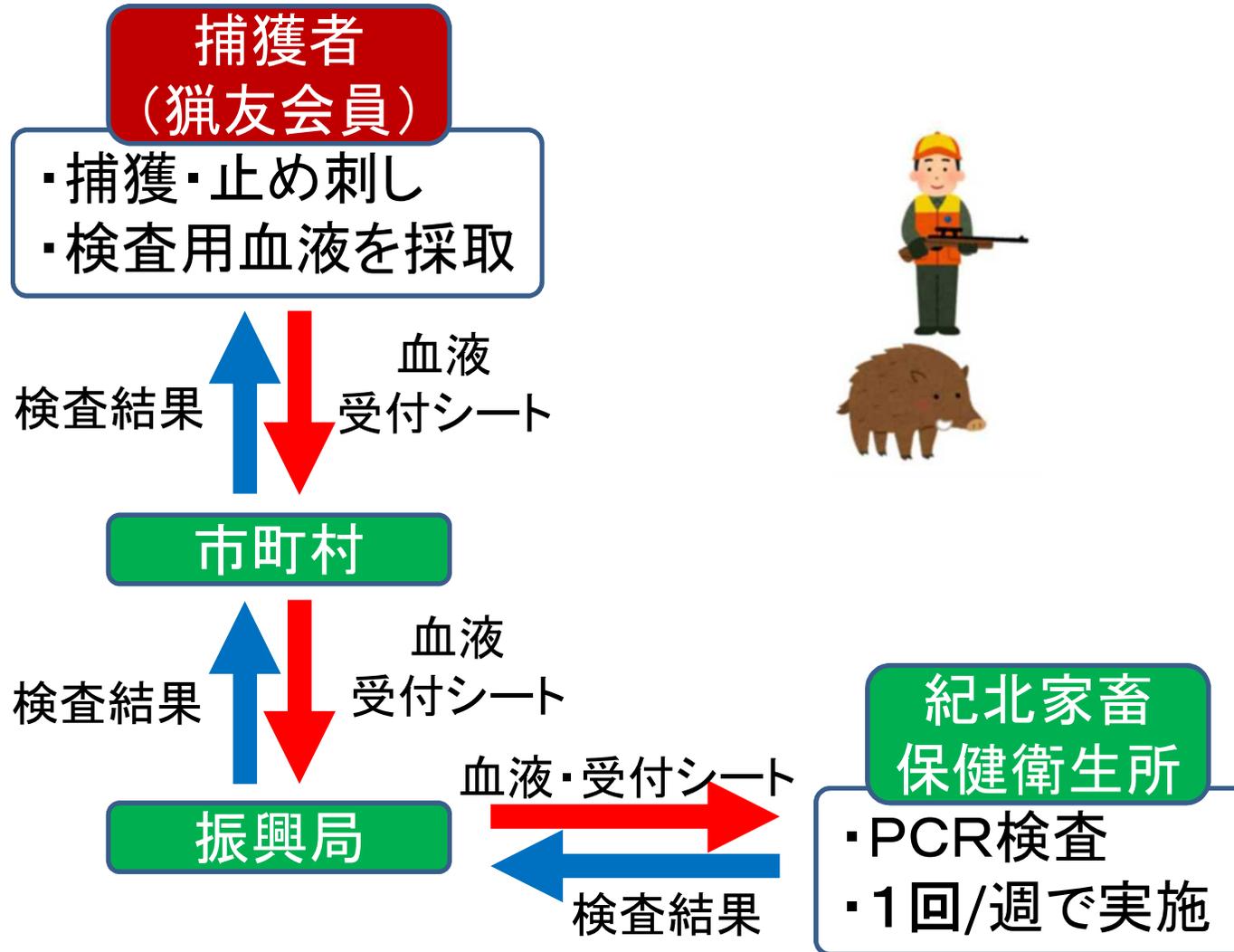


図5

検査材料

- 死亡いのしし：扁桃・腎臓・脾臓

搬入目安：新鮮な個体

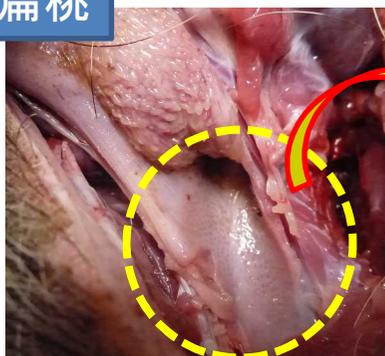
不適条件

腐敗・乾燥した個体や、外傷等
死亡原因が明確な個体

外傷・腐敗が
認められた個体



扁桃



扁桃



腎臓



脾臓



- 捕獲いのしし：血清（採取時の注意事項あり）

図6

野生いのしし血液検体の採取

1. いのししを止め刺し、プラスチックチューブの半分程度まで採取
2. プラスチックチューブの口に付いた血液を拭い、チューブの蓋をしっかりと閉め消毒する
3. チャック付きビニール袋へ入れ(2重)、保冷材とともにクーラーボックスに入れる

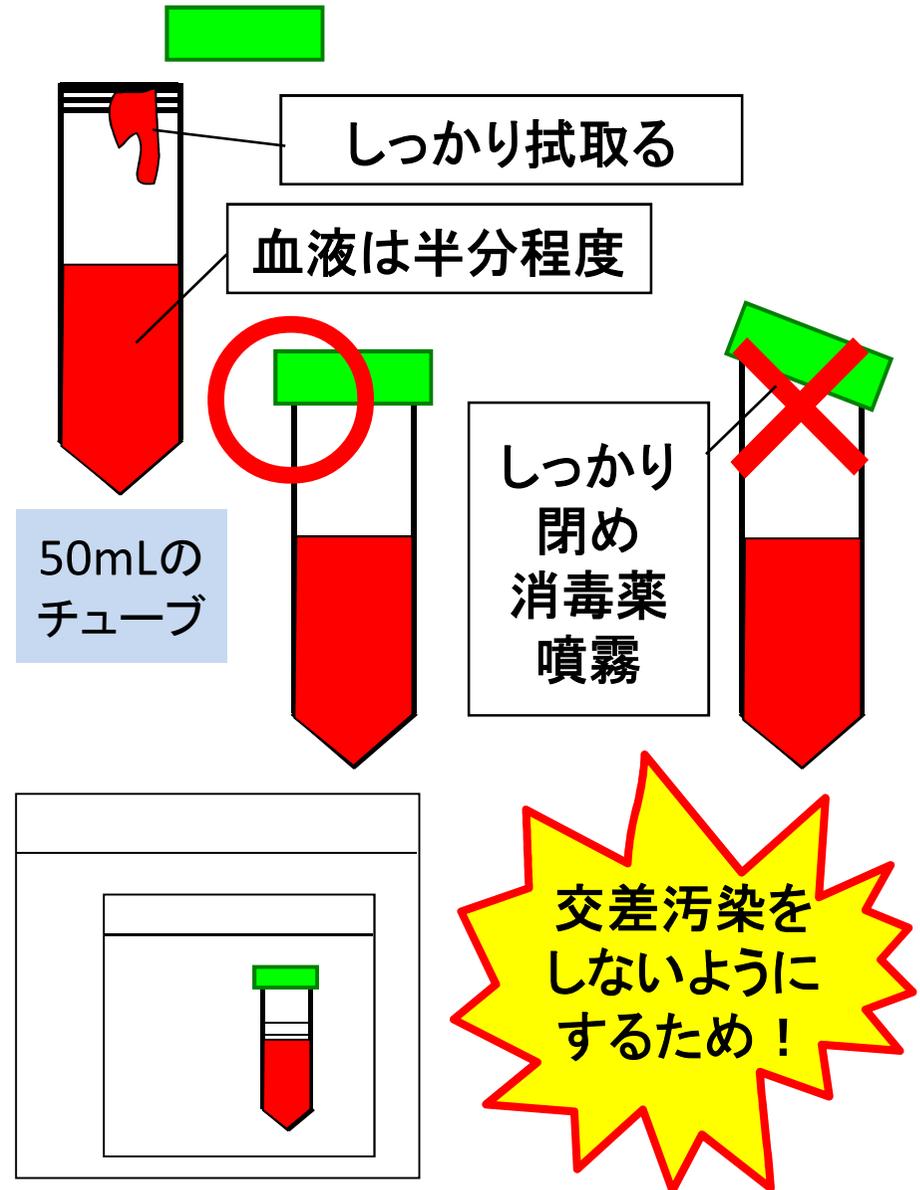


図7

検査方法

- 遺伝子検査

ペスチウイルスの
コンベンショナル
RT-PCR

ペスチウイルス陽性
の検体はRFLPへ
遺伝子切断で
豚熱陽性確定
(2時間追加)

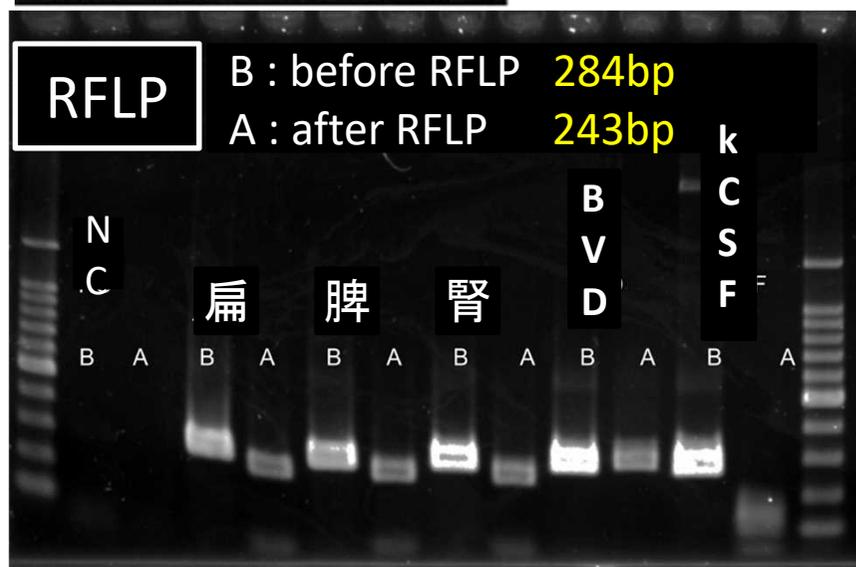
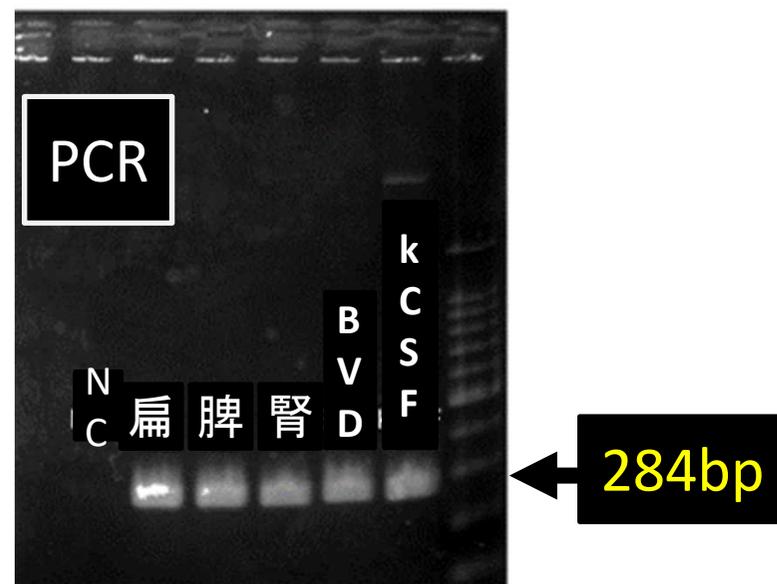


図8

検査方法

- 抗体検査

ELISA



図9

豚熱陽性事例のまん延の推移

月ごとの陽性プロットMAP

✕ 陽性いのしし確認地点

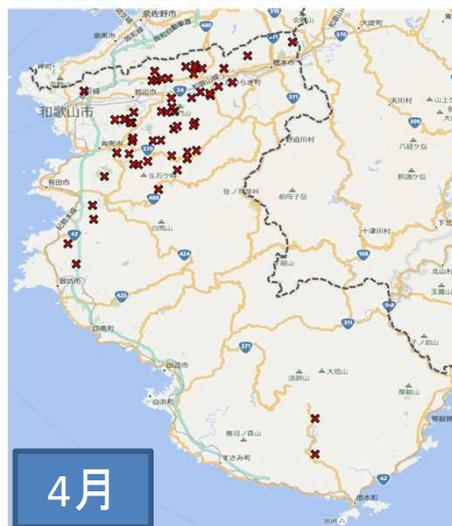
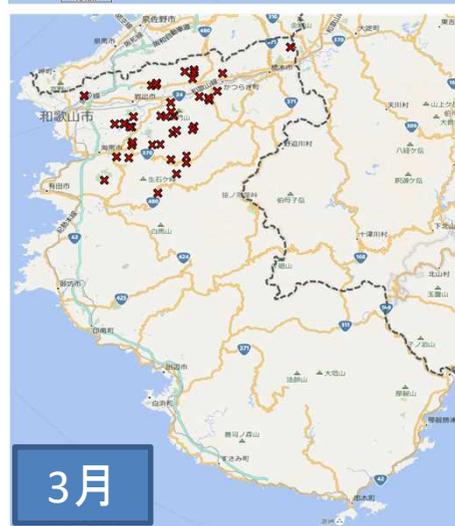
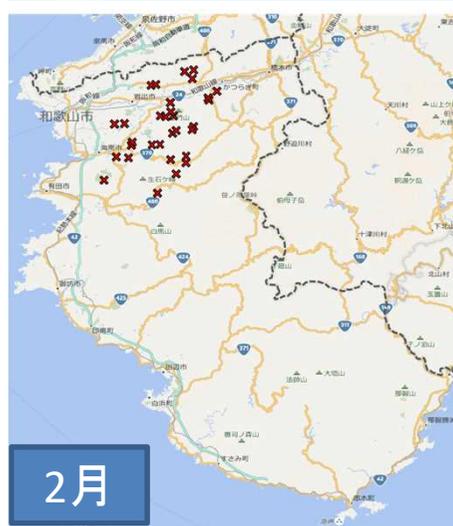
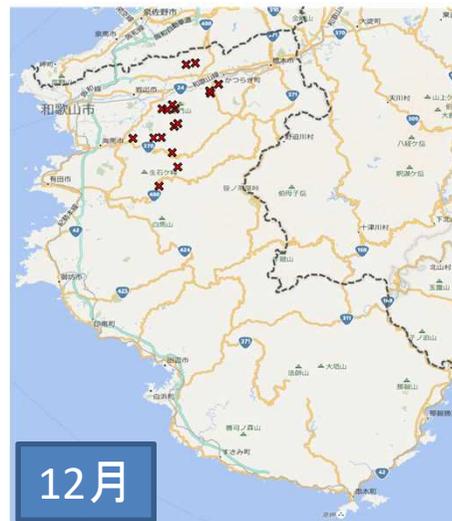


図10

陽性分布

市町村の初確認月

10月：紀の川市

11月：紀美野町、
かつらぎ町、
有田川町

12月：海南市

2月：和歌山市

3月：橋本市、湯浅町

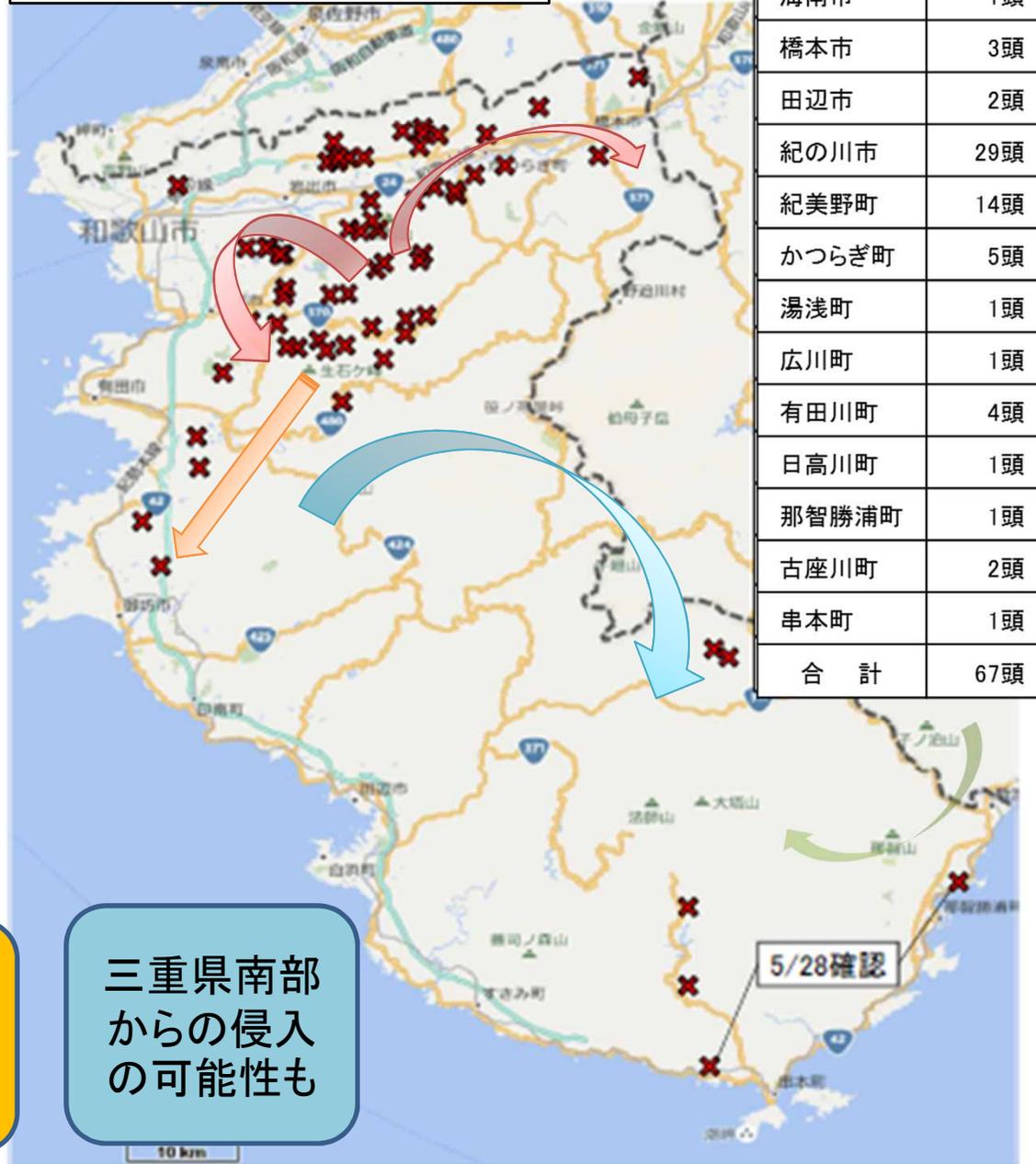
4月：広川町、古座川町、
日高川町

5月：田辺市、串本町、
那智勝浦町

豚熱遺伝子陽性率 14.7%
内訳 死亡いのしし 52.4%
捕獲いのしし 12.9%

令和3年5月28日現在

✕ 陽性いのしし確認地点



陽性頭数	
和歌山市	2頭
海南市	1頭
橋本市	3頭
田辺市	2頭
紀の川市	29頭
紀美野町	14頭
かつらぎ町	5頭
湯浅町	1頭
広川町	1頭
有田川町	4頭
日高川町	1頭
那智勝浦町	1頭
古座川町	2頭
串本町	1頭
合計	67頭

三重県南部
からの侵入
の可能性も

5/28確認

10 km

図11

経口生ワクチン野外散布場所

令和2年度

• 令和2.12、令和3.2: ○
橋本市、かつらぎ町、九度山町

• 令和3.1、2: ○
紀の川市、岩出市、紀美野町

• 令和3.2: 海南市 ○

令和3年度

• 令和3.6: ○
古座川町
湯浅町、広川町、有田川町
(一部)

✕ 陽性いのしし確認地点

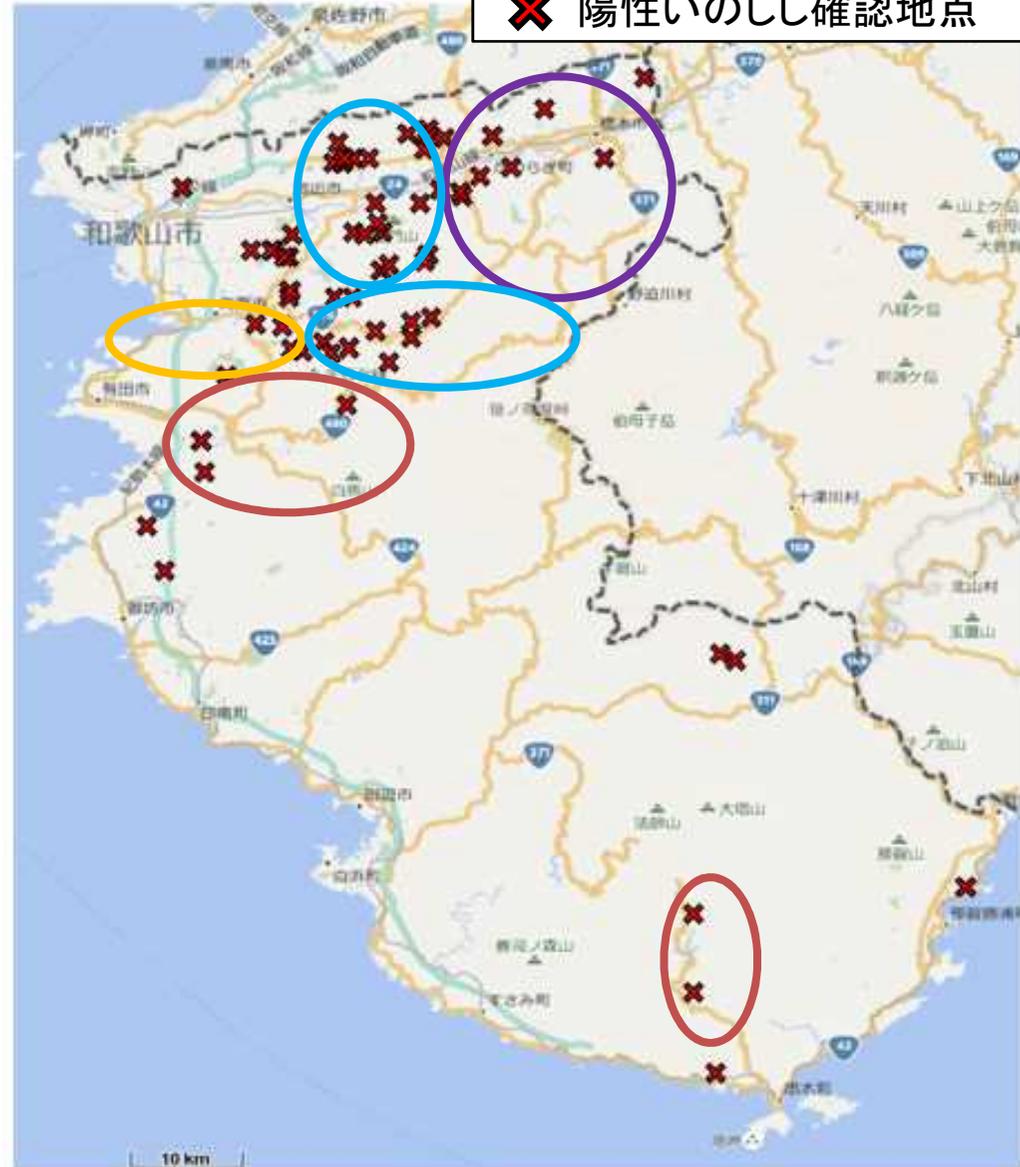


図12

豚熱感染確認区域の 捕獲野生いのししの取扱い

		豚熱感染確認区域内	
~2021.4	食肉利用のための流通不可		
2021.4~	陽性	流通不可	
	陰性	流通可能	

図13

豚熱感染確認区域における 捕獲野生いのししのジビエ利用検査の流れ

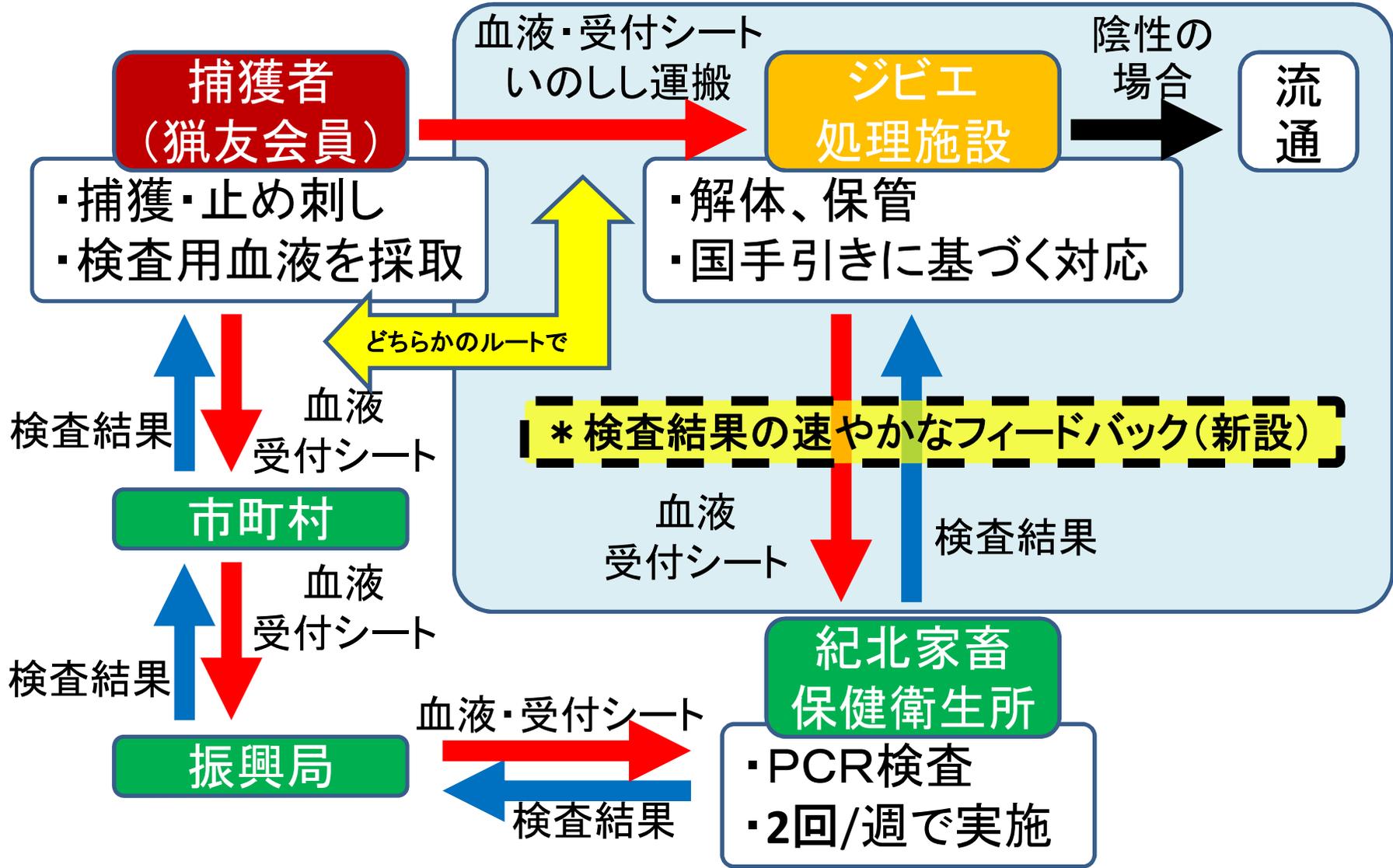
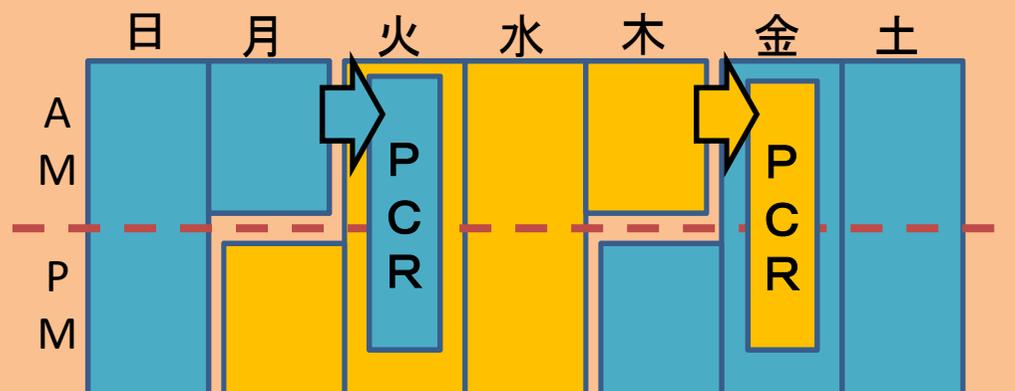


図14

今後

- 検査日を
週1回から
週2回へ



- リアルタイムPCRの早期導入
コンベンショナルPCRに比べ、簡便で多検体
処理や結果判定までの時間短縮が可能

野生いのしし豚熱検査体制の強化